

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																																										
東海医療工学専門学校		平成4年4月1日	小足信雄		〒 470-0203 (住所) 愛知県みよし市三好丘旭3-1-3 (電話) 0561-36-3303																																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																																										
学校法人セムイ学園		平成4年4月1日	野村齊史		〒 450-0003 (住所) 愛知県中村区名駅南2-7-2 (電話) 052-551-1233																																										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																									
医療	医療専門課程	救急救命科			平成10年文部科学省 認定	-																																									
学科の目的	本学科は、教育基本法に則り、学校教育法に基づき、必要な専門的かつ実践的な教育を施し、社会に貢献しうる有能な人材として、医療の最前線で活躍する救急救命士を育成することを目的とする。																																														
認定年月日	平成30年2月28日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
2年	昼間	2217	1062	0	1125	0	30																																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																										
100人	94人	0人	6人	25人	31人																																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 優:80点以上、良:70～80点未満、 可:60～70点未満、不可(不合格):60点 評価の方法: 科目試験・卒業試験及び平素の成績、 性行を斟酌して行う																																										
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■春季:3月25日～3月31日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	卒業要件:																																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者に対しては、進級に関わる授業時間を超えない場合は補講を行い、進級に関わる者は休学とし原級に留めて翌年度再履修させる。			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 東海救急医療活動研究クラブ ■サークル活動: 有																																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 消防機関、医療機関 ■就職指導内容 キャリア講習を実施、面接指導、面接時の服装チェックを行っている ■卒業生数 44 人 ■就職希望者数 44 人 ■就職者数 36 人 ■就職率 81.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 81.8 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・その他: 8人 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急救命士</td> <td>②</td> <td>42人</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	救急救命士	②	42人	41人																																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																												
救急救命士	②	42人	41人																																												
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和4年4月1日時点において、在学者93名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者92名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 就職 ■中退防止・中退者支援のための取組 学力不足者には授業後に補習を実施。欠席が目立つ生徒、学力不振者は保護者に連絡の上、面談指導を行っている。			■中退率	1%																																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ひとり親家庭奨学金: 学園が定める所得基準未満を対象に、入学後、在学年度ごと10万円の支給(給付型)。利子補給奨学金: 教育ローン利用者で、学園が定める所得基準未満を対象 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月:			評価結果を掲載したホームページURL																																											
当該学科のホームページURL	https://www.tokai-med.ac.jp/kougaku/																																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

職業に必要な実践的かつ専門的な能力及び救命医療現場において即戦力となる能力を育成するため、病院、業界団体等との密接な連携を通じ、実践的な専門教育の確保に組織的に取り組み、病院等からの要望、意見を活用し、学校が主体的に教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はセムイ学園運営指針において校長レベルの委員会に位置付けられている。教育課程の編成は先ず、学科教員の起案により学科会議で協議した結果を教育編成委員会で審議し校長が決裁する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
小足信雄	東海医療工学専門学校	R4.4.1～R6.3.31	
小足有紀	東海医療工学専門学校	R4.4.1～R6.3.31	
大野健二	東海医療工学専門学校	R4.4.1～R6.3.31	
柴尾隆行	東海医療工学専門学校	R4.4.1～R6.3.31	
廣崎英和	東海医療工学専門学校	R4.4.1～R6.3.31	
石河康司	東海医療工学専門学校	R5.4.1～R7.3.31	
大竹宗也	東海医療工学専門学校	R5.4.1～R7.3.31	
渡邊栄三	愛知医科大学病院 救命救急科	R4.10.1～R6.9.30	②
竹内亮太	岡崎市民病院 集中治療センター	R3.7.1～R6.6.30	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年11月17日 17:00～18:00

第2回 令和5年3月27日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. 消防職員採用試験に向けた教育支援として、消防職員採用試験に近年採用されているSPI(性格特性や基礎的な知的能力を測定することに優れた試験方法)などのこれまでの公務員採用試験とは異なる試験形式への対策として、幅広い書籍購入及び模擬試験の実施支援などを図り、これまで通りの公務員講座などの強化を図っていく。

2. 医療機関への就職支援と臨床実習の事前教育の充実化を図るために「安全管理」「感染対策」「チーム医療」の教授内容を見直していく予定である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

救急救命に関する臨床的で実践的な実習を行うために、救急救命の関連の病院・企業から当該病院・企業に所属する臨床経験5年以上の救急救命士又は看護師等を講師として派遣し、校内の教室、設備等を活用した指導などの協力を得られる病院・企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等の講師が事前に担当教員と打ち合わせを行い、実習の内容、学修成果の達成度評価指標等について定める。企

業等の講師の臨床的な視点で授業を展開する。授業終了後に担当教員と意見交換をし、他の授業との関連性や学生理解度などを確認し、生徒の学習状況によっては学習支援をする。実習終了時には講師による生徒の学修結果の評価を踏まえ担当教員が成績評価を行う。

なお、年間授業時間数90時間のうち、28時間分は、彩 株式会社からの講師派遣による実習として実施する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
シミュレーション実習 I	1)道路・一般住宅・階段などの状況に応じた救急搬送に関する技術を学ぶ。 2)傷病者とのコミュニケーション技術を学ぶ。 3)傷病者に対する安全の配慮、事故防止対策について学ぶ。	彩 株式会社

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園が定める教員研修規程に基づき、救命医療現場の最新の知識及び技術・技能の修得と生徒に対する指導力の向上を方針とし、企業等との連携により、組織的な研修を行っている。

また、教員の専門知識、技術の向上のために救急医学に関する学会や救急救命士教育施設協議会の研修会への参加を促している。

(2)研修等の実績

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第8回 日本救急救命学会 学術集会	連携企業等:	日本救急救命学会
期間:	令和4年10月22日(火)	対象:	救急救命士
内容:	救急救命士としての責任を果たすための、理性に裏打ちされたプロフェッションとしての積極的な活動を行うための自己研鑽の場として、救急救命士の「学問」の確立などを目的とする。		

研修名:	医療機関に所属する救急救命士に対する研修の講師となる人材のための講習会	連携企業等:	厚生労働省 一般社団法人臨床教育開発推進機構
期間:	令和5年2月11日(土)	対象:	医師、看護師、救急救命士
内容:	医療機関に所属する救急救命士に対する指導方法を法律、研修の実施と管理などの実務教育について学ぶ。		

研修名:	第12回 JESA主催 京都橘大学(第8回)PEMECコースB	連携企業等:	日本臨床救急医学会(全国救急救命士教育施設協議会)
期間:	令和5年2月23日(木)	対象:	全国救急救命士教育施設協議会 委員、その他の会員校の卒業年次該当学生など
内容:	救急隊員による疾病の観察・処置の標準化アルゴリズムを修得することを目的としたセミナーである。		

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	JESA 社員総会・教員研修会	連携企業等:	全国救急救命士教育施設協議会
期間:	令和4年8月18日(木)～令和4年8月19日(金)	対象:	全国救急救命士教育施設協議会会員
内容:	ICT教育の一環としてVRを活用した教育をVR実証研究報告と体験セミナーから学生の指導方法や教授方法について学ぶ。 本研修会は救急救命士を指導する教員を対象としているが救急救命士教育スキルではなく、あくまでも教授学や教育工学について学習する。		

研修名:	PUSH PROJECT インストラクター講習会	連携企業等:	特定非営利活動法人医療ライフサポート協会
期間:	令和4年8月19日(金)	対象:	医師、看護師、救急救命士、その他の医療・消防関係者など
内容:	一般市民を対象とした心肺蘇生法を普及啓発するための指導方法および講習会の開催方法などについて学ぶ。 なお心肺蘇生法に関する知識および技能を学ぶのではなく、一般市民および学生教育に求められる心理的な配慮や教授方法について学習する。		

研修名:	進研アド Withコロナ時代を乗り越える!!～学習意欲を高める入学前教育(Webセミナー)	連携企業等:	(株)進研アド
期間:	令和4年6月7日(火)	対象:	学校責任者および教務のご担当教職員など
内容:	コロナ禍以前と比較し、高校生の勉強に対する意欲が下がっているというデータも公表されており、学習意欲を高める方法論として入学前教育のあり方などについて学ぶ。		

(3)研修等の計画

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第32回 全国救急隊シンポジウム	連携企業等:	一般財団法人救急振興財団 名古屋市消防局
------	------------------	--------	----------------------

期間:	令和6年2月1日(木)～2月2日(金)	対象:	救急隊員、救急救命士、その他の消防関係者など
内容:	全国の救急隊員等を対象とした実務的観点からの研究発表や最新の医学知識等を学ぶことを目的とする。		
研修名:	第9回 日本救急救命学会 学術集会	連携企業等:	日本救急救命学会
期間:	令和5年10月28日(土)	対象:	救急救命士
内容:	救急救命士としての責任を果たすための、理性に裏打ちされたプロフェッションとしての積極的な活動を行うための自己研鑽の場として、救急救命士の「学問」の確立などを目的とする。		
研修名:	病院前における循環器救急疾患対応のトレーニングコース(PACC)	連携企業等:	日本臨床救急医学会 (全国救急救命士教育施設協議会)
期間:	令和5年度予定 (開催日程未定)	対象:	医師、看護師、救急救命士、その他の医療・消防関係者など
内容:	救急隊員による循環器疾患の観察・処置の標準化アルゴリズムを修得することを目的としたセミナーである。		
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>			
研修名:	JESA 社員総会・教員研修会	連携企業等:	全国救急救命士教育施設協議会
期間:	令和5年8月17日(木)～令和5年8月18日(金)	対象:	全国救急救命士教育施設協議会会員
内容:	本研修会は救急救命士を指導する教員を対象としているが救急救命士教育スキルではなく、あくまでも教授学や教育工学について学習する。		
研修名:	「専修学校教員」資格取得に伴う講習会	連携企業等:	日般社団法人愛知県専修学校各種学校連合
期間:	令和5年7月1日、10月7日、10月21日(3日間)	対象:	愛知県専修学校各種学校連合に所属する教員
内容:	専修学校教職員としての必要な知識を身に付けることを目的とする。		
研修名:	これから求められる授業研究など Web講習会(自己視聴型動画教材)	連携企業等:	独立行政法人観職員支援機構
期間:	令和5年度 (教材により自己都合で視聴可能)	対象:	教職員
内容:	アクティブ・ラーニングなどの教職員向けの無料動画 ・ アクティブラーニング ・ 教育法規 ・ 学校改善を図るマネジメント能力の育成 など		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針 自己評価の客観性を高めるとともに、教職員と学校関係者が学校運営の現状と課題について共通理解を持ち協力することによって、教育活動その他学校運営の改善が適切に行われるようにすることを目的として学校関係者評価を実施することを基本方針とする。			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	
(1) 教育理念・目標		1. 教育理念(建学の精神)・目的・目標、育成人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか 2. 社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか	
(2) 学校運営		1. 運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか 2. 事業計画を作成し、執行しているか 3. 運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか 4. 教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか 5. 人事・給与に関する制度を確立しているか 6. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	

(3)教育活動	<p>1.育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか</p> <p>2.各学科の教育目標、育成人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか</p> <p>3.成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p> <p>4.資格・免許取得のための指導体制があるか</p> <p>5.(基礎的・汎用的能力(①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力)を身につけるための取組が実施されているか</p>
(4)学修成果・教育成果	<p>1.各学科の教育目標、育成人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか</p> <p>2.就職率の向上が図られているか</p> <p>3.資格・免許取得率の向上が図られているか</p> <p>4.卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>
(5)学生支援	<p>1.学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるようになっているか</p> <p>2.就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか</p> <p>3.学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>4.学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか</p> <p>5.退学率の低減が図られているか</p> <p>6.保証人との連携体制を構築しているか</p> <p>7.卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>
(6)教育環境	<p>1.施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>2.校外の実習について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>3.防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか</p>
(7)学生の受入れ募集	<p>1.学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学選抜を行っているか。社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか</p> <p>2.入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>3.学納金は妥当なものとなっているか</p>
(8)教育の内部質保証システム	<p>1.法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか</p> <p>2.個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか</p> <p>3.自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか</p> <p>4.各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか</p> <p>5.教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか</p>
(9)財務	<p>1.学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>2.予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか</p> <p>3.財務について会計監査が適正におこなわれているか</p> <p>4.私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか</p>
(10)社会貢献・地域貢献	<p>1.学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか</p> <p>2.学生のボランティア活動を奨励・支援しているか</p>
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

<教育活動>

教育課程や国家試験対策も適切に評価され、必要に応じて変更が行われていると判断できる。今後も2年課程の強みを活かした教育活動を行ってほしいとの意見に基づき、教育の質の向上を図るため、非常勤講師として招聘する医師の充実を

図るとともにカリキュラム編成を行い、これまで以上に知識・技術のアップデートに取り組んでいる。

<社会貢献>

今年も例年あった様々なボランティア活動の参加が中止になっていくなか、いびがわマラソンの救護活動ボランティアに参加させていただく予定があるため、活躍を期待したいとの意見があり、下記のとおり取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
竹内 亮太	岡崎市民病院 集中治療センター	R3.7.1～R6.6.30	企業等委員
野々垣常正	東海歯科医療専門学校	R3.11.1～R6.10.31	学識経験者
本多 鼓	学校法人セムイ学園	R5.7.1～R8.6.30	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.tokai-med.ac.jp/kougaku/>

公表時期: 令和5年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学の教育活動や学校運営の状況に関する情報提供として、学校自己点検評価及び学校関係者評価の結果及び今後の改善方策等を公表・説明を行い、企業等との協力体制を整え、連携を推進する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の教育方針、特色 2. 学校の沿革、歴史 3. 校長名、所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	1. 入学者に関する受け入れ方針、収容定員 2. カリキュラム 3. 国家資格資格取得の実
(3) 教職員	1. 教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	1. 就職支援等への取組支援 2. 臨床実習の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	1. 学校行事への取組状況 2. 課外活動
(6) 学生の生活支援	1. 学生支援への取組状況(学生相談)
(7) 学生納付金・修学支援	1. 学生納付金の取扱 2. 学内・学外奨学金制度
(8) 学校の財務	1. 事業活動収支計算書
(9) 学校評価	1. 学校自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.tokai-med.ac.jp/kougaku/>

公表時期: 令和5年7月31日

## 授業科目等の概要

(医療専門課程救急救命科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			化学	化学の基礎を学び、救急医療・医学との関連を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
2	○			生物学	生物学の基礎を学び、解剖学、生理学、生化学の基本として理解する。	1前	30	2	○			○			○	
3	○			情報科学	情報機器の基本を理解して操作ができるようにする。プレゼンテーションの基本的作成方法を学習し、実際の現場で役立つ知識を得る。	1前	30	2	○			○			○	
4	○			心理学	臨床心理、傷病者心理の基礎が理解できるようにする。	1後	16	1	○			○			○	
5	○			英語	基礎的な英会話を実践的な学習を通して理解する。	1後	30	2	○			○			○	
6	○			体育	医療従事者として健全な心身を育成する	1後	30	2	△		○	○			○	
7	○			解剖学・生理学Ⅰ	人体の構造と機能及び生理機能に関する知識を系統的に理解する。	1前	75	3	○			○			○	
8	○			解剖学・生理学Ⅱ	人体の構造と機能のうち呼吸系、循環系、消化器系、泌尿系について系統的に理解する。	1前	30	1	○			○			○	
9	○			生化学	生化学物質と代謝について学び、疾病と生化学との関連を理解する。	1前	30	1	○			○			○	
10	○			薬理学	薬物の作用や動態を通じて薬剤投与に関する理解を深める。	2前	30	2	○			○			○	
11	○			病理学・法医学	病因や病変、障害、損傷、炎症、腫瘍といった疾病の基本を理解する。死因や病変、障害、損傷、炎症、腫瘍といった疾病の基本を理解する。	1前	50	2	○			○			○	
12	○			保健医療制度・社会保障と社会福祉	我が国の公衆衛生、社会保障や社会福祉について理解する。	1後	45	3	○			○			○	



13	○		救急医学概論	生命倫理について知識を身につけ、救急救命士の役割、責任をよく認識し、それに必要な法律・救急医療体制・病院前救護体制などを理解する。さらに災害医療についても対応できる知識を身につける。	1 前	40	2	○			○	○						
14	○		観察と評価	救急現場で遭遇する傷病者を適切に評価し、適切な応急処置と搬送が出来るようになることが目標である。	1 後	30	1	○			○	○						
15	○		救急処置・搬送	救急救命士が現場で行う処置の基本技術の理論と実際を理解する。 また特定行為の根拠を学び、観察・処置の基本技術の理論と実際を理解する。	1 前	30	1	○			○	○						
16	○		検査/放射線医学	患者が示す異常の原因を発見する重要な手段である生体検査、検体検査の種類とその意味を理解する。救急救命士として放射能・放射線の知識・対処を身につける。	1 後	20	1	○			○		○					
17	○		感染/安全管理	感染症の種類、分類を学び、その原因となる病原微生物に対する消毒・滅菌法を学習する。傷病者の搬送時における感染予防法を習得して、救急活動における安全管理技術を学ぶ。	1 後	30	1	○			○		○					
18	○		心肺停止	患者が示す異常の原因を発見する重要な手段である生体検査、検体検査の種類とその意味を理解する	2 前	40	2	○			○		○					
19	○		ショック・循環不全	ショック・循環不全の病態生理を理解した上で、症状、治療、重症度の判断を学ぶ。	2 前	20	1	○			○		○					
20	○		救急症候・病態生理学Ⅰ	発熱、痙攣、めまい、頭痛などの症候や病態生理を理解し、観察、評価、処置に反映できる。	1 前	20	1	○			○		○					
21	○		救急症候・病態生理学Ⅱ	意識障害や呼吸困難の症候や病態生理が理解でき、観察、評価、処置及び搬送ができるよう学習する。	1 後	20	1	○			○			○				
22	○		救急症候・病態生理学Ⅲ	感覚麻痺、運動麻痺、胸痛、動悸、喀血、腰痛、腹痛、吐血、嘔吐、下痢、血尿の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置を系統的に習得する。	1 通	60	2	○			○		○					
23	○		救急症候・病態生理学Ⅳ	腰痛の種類を知り、消化器系の主症状である腹痛・嘔吐・下痢について原因を理解し、疾病を考え、現場での配慮すべきことを学ぶ。	2 前	16	1	○			○		○					
24	○		疾病救急医学Ⅰ	内分泌・代謝系疾患および神経系疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1 後	50	2	○			○			○				
25	○		疾病救急医学Ⅱ	呼吸器および循環器の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1 後	40	2	○			○			○				
26	○		疾病救急医学Ⅲ	消化器系疾患、泌尿生殖器疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1 後	30	1	○			○				○			

27	○		疾病救急医学Ⅳ	泌尿生殖器疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できるよう学習する。	1後	20	1	○			○			○		
28	○		疾病救急医学Ⅴ	高齢化によって人体に起こる変化とそれによって生じる疾患について理解する。	2前	20	1	○			○			○		
29	○		疾病救急医学Ⅵ	救急救命士として、新生児を含む大人とはちがう小児の特性・生理的特徴を理解し、必要な救急疾患についての基礎的な知識を学ぶ。	2前	30	1	○			○			○		
30	○		外傷救急医学Ⅰ	外傷の定義、発生機序、身体各部の外傷の特徴とその取り扱い、出血と止血機構、創傷と感染・治癒機転などについて勉強します。	1後	30	1	○			○			○		
31	○		外傷救急医学Ⅱ	頭部外傷、頸部、脊椎、脊髄、胸部外傷の病態生理について理解し、適切な救急処置ができるように学習する。	1後	30	1	○			○			○		
32	○		外傷救急医学Ⅲ	腹部外傷、四肢外傷、多発外傷の病態生理について理解し、適切な救急処置ができるように学習する。	1後	30	1	○			○			○		
33	○		外傷救急医学Ⅳ	妊婦、小児、高齢者の外傷、またスポーツ外傷、熱傷、化学損傷、縊頸・絞頸、刺咬症の特徴、外傷に関連する特殊感染症について学習する。	2前	30	1	○			○			○		
34	○		環境障害・急性中毒	中毒物質による障害の受傷機転、発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解する。	2前	30	1	○			○			○	○	
35	○		シミュレーション実習Ⅰ	1) 道路・一般住宅・階段などの状況に応じた救急搬送に関する技術を学ぶ。 2) 傷病者とのコミュニケーション技術を学ぶ。 3) 傷病者に対する安全の配慮、事故防止対策について学ぶ。	1通	90	2				○	○		○	○	○
36	○		シミュレーション実習Ⅱ	救急救命士特定行為プロトコールに準じた救急救命処置を学習する。JPTECガイドラインに基づいた外傷時における適切な処置・判断を学習する。	1通	180	4				○	○		○	○	
37	○		シミュレーション実習Ⅲ	BLSO・NCPRに基づいた分娩介助（新生児蘇生）時における適切な処置・判断を学習する。 AMLSに基づいた内因性疾患時における適切な処置・判断を学習する。 PSLSに基づいた脳卒中時における適切な処置・判断を学習する。	2通	315	7				○	○		○	○	
38	○		シミュレーション実習Ⅳ	救急救命士による救急現場における適切な観察・処置・判断を総合的に学習する。 119番通報後から病院到着までの救急活動を総合的に学習する。 救急救命士国家試験（状況設定問題）を基盤とした実践的な救急活動を総合的に学習する。	2後	360	8				○	○		○	○	

39	○	臨床実習	第3次救急医療機関において、修得した知識を的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけるとともに、メディカルコントロールの重要性を確認し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。	2 後	180	4			○	○	○
合計				39	科目	75 単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：2年以上在学し、学則の授業科目を履修し科目試験及び卒業試験に合		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：定められたクラスで授業を受け履修する。		1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。